

—◆◆◆—
2009.7.10 (vol.11)

高校教育課 情報メール

発行者：宮城県教育庁高校教育課

<http://www.pref.miyagi.jp/koukyou/>

—◆◆◆—
県立高等学校の特色ある学校づくりの取組や全日制課程普通科通学区域の全県一学区等についての情報をお届けします。

2：【高校の特色ある取組】と3：【学校紹介スペシャル】は各高等学校から寄せられた原稿を掲載しています。

なお、県立高等学校についての情報及び全県一学区についての情報は以下のホームページを御覧ください。

県立学校「公立高校ホームページ」

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/kyouiku/school/koukou.htm>

全県一学区決定までの経緯等

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/kyou-kikaku/>

全県一学区に向けての取組

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/koukyou/ichigakku/ichigakku.htm>

■ もくじ ■

1：【全県一学区に向けての取組】

(1) 公立高校合同相談会の開催

(2) オープンキャンパス（学校説明会）の開催

2：【高校の特色ある取組】

(1) 白石高等学校（全日制普通科）

統合に向けて着々と準備を整えています！

(2) 小牛田農林高等学校

田んぼアート

(3) 古川高等学校

文化祭に向けた取組

(4) 志津川高等学校

中学校と高校との「つながり」を実感できる高校

(5) 貞山高等学校

宮城県初！の魅力がいっぱい

(6) 一迫商業高等学校

栗原版デュアルシステム

(7) 黒川高等学校

黒川高特色ある取組について

(8) 石巻西高等学校

学習習慣の定着を目標にした取組

3：【学校紹介スペシャル】

佐沼高等学校

校是「文武両道」のもと、一人ひとりの目標に向かって

泉松陵高等学校

希望進路100%達成を目指して

泉高等学校

無限の可能性一瞬かがやく泉高生(いずみ)ー

石巻好文館高等学校

単位制高校に変わり、新たな時代に向かって歩みだす好文館

岩出山高等学校

| 一人ひとりを大切にし、一人ひとりの力を伸ばす、岩出山高校

4：【コラム】

気仙沼高等学校

「本校の歩み、これから」

5：【お知らせ】

公立高校ガイド（入試情報）について

公立高校ガイドブックについて

6：【編集後記】

■ 1 全県一学区に向けての取組 ■

□ 公立高校合同相談会の開催

「公立高校合同相談会」を6会場で開催します。各高校の特色や教育内容、学校生活等の説明とともに、個別の相談・質問に応じます。参加についての事前の申込みは必要ありません。中学生と保護者の皆様、ぜひ参加ください。

①「学校別相談コーナー」

… 各高校のスペースで個別の相談・質問に応じます。

②「学校別説明会」

… タイムテーブルに従って各高校が学校紹介（約15分）を行います。

◇石巻会場 … 7月11日（土）10：00～16：00

石巻市総合体育館

① 38校 ② 32校 ③ 44校

◇大崎会場 … 8月1日（土）10：00～16：00

大崎市古川総合体育館

① 49校 ② 42校 ③ 33校

◇仙台会場 … 8月9日（日）9：30～16：30

仙台市体育館

① 61校 ② 50校 ③ 21校

- ◇気仙沼会場 … 8月22日(土) 10:00～15:30
気仙沼市総合体育館(ケー・ウェーブ)
① 17校 ② 14校 ③ 65校
- ◇登米会場 … 9月 5日(土) 10:00～16:00
迫体育館・迫公民館
① 38校 ② 31校 ③ 44校
- ◇白石会場 … 9月12日(土) 10:00～16:00
白石市文化体育活動センター(ホワイトキューブ)
① 36校 ② 33校 ③ 46校

- ①:「学校別相談コーナー」参加予定校数
②:「学校別説明会」参加予定校数
③:「資料」参加予定校数

高校別の相談コーナーで個別に高校の紹介や進路相談が受けられます。また、高校ごとに教員による学校紹介(一斉説明会)があります。
なお、石巻、大崎、気仙沼、登米、白石会場の駐車場には限りがあります。仙台会場には駐車場がありませんので、一般交通機関をご利用ください。
詳細については、高校教育課のホームページをご覧ください。

《方法》 「宮城県教育庁高校教育課」 検索



「宮城県／教育庁高校教育課」をクリック



「平成21年度公立高校合同相談会実施要項」をクリック

□ オープンキャンパス(学校説明会)の開催

各高校において「オープンキャンパス(学校説明会)」を開催します。学校の特色の説明や、授業・部活動の体験・見学など、各学校がそれぞれ工夫を凝らした魅力ある説明会・見学会です。ぜひ参加ください。

今年度も夏休み中に50校を超える高校が開催を予定しています。また、夏休みの前後の土曜日等にも多くの学校が開催を予定しています。

各学校の開催日時や参加対象者等について、高校教育課のホームページに掲載していますので、ご覧ください。

《方法》 「宮城県教育庁高校教育課」 検索



「宮城県／教育庁高校教育課」をクリック



「平成21年度実施オープンキャンパス(学校説明会)一覧」をクリック

■ 2 高校の特色ある取組 ■

宮城県の高等学校の特色ある取組についての情報を紹介するコーナーです。

□ 白石高等学校（全日制普通科）

<統合に向けて着々と準備を整えています！>

いよいよ来年度に迫った白石女子高校との統合に向け、白石高校は現在準備を着々と進めているところです。

新しい白石高校は、来年度入学生から全日制普通科（単位制）1学年6学級（定員240名男女）、全日制看護科（学年制）1学年1学級（定員40名男女）の学校となります。また現在の両校の1，2年生も、来年度は統合し現在建築中の同じ校舎に通うこととなります。

統合校の情報については本校HPで詳しく紹介していますし、また、次回のメールマガジンでもお知らせしますのでご期待下さい。

では、現在の白石高校の特色や代表的な行事などを紹介しましょう。

①高い現役国公立大進学率と盛んな部活動

本校は、大学進学を目指す生徒がしっかりとその目標を実現できるような教育を目指しています。今年3月卒業した生徒の現役大学進学希望達成率は79.0%で、中でも国公立大学合格率35%は県内でも上位の数値となっています。

また部活動も盛んで、放課後の校舎、体育館、グラウンドは活気に溢れています。今年度は運動部においては山岳部、陸上部、ソフトテニス部がインターハイへ、陸上部、ソフトテニス部が東北大会へ出場します。文化部では将棋部が全国大会の常連で、囲碁部もたびたび東北大会に出場しています。仮装行列やミス白高で有名な文化祭（白龍祭）においても、文化部は大活躍します。

3年生は部活動引退後、スムーズに、かつ力強く受験モードに移行し、連日遅くまで学校で勉強しています。この集中力と馬力が白石高校の進学実績を支えています。

②今年も勝ちました“白角定期戦”

今年で47回を数える角田高校との対抗戦で、毎年5月中旬に運動部が試合を行い、勝利種目の数で総合優勝を決めます。1年生にとっては、応援練習の意味が分かり、その辛さが充実感に変わる瞬間をもたらします。今年度は5勝1敗1引き分けで白石高校が勝利しました。過去の対戦成績は、白石高校の31勝13敗3分けです。来年度は両校の共学化が完了し、新たな定期戦の始まりの年となります。

③学区制撤廃を追い風にする立地条件

白石高校は立地条件にも大変恵まれています。緑豊かな大自然と、心優しく穏かな地元の人々に囲まれ、思春期をのびのびと、かつ有意義に過ごすには絶好の環境にあるといえます。

学区制撤廃が不利に働くのでは？と思う人も少なくないようですが、白石高校で意外に知られていないのはそのアクセスの良さです。JRの電車が上下線とも平均20分程度の間隔で終日運行されており、しかも駅から学校まで徒歩12～3分と近いため思ったより時間がかかりません。例えば、仮に山元町坂元から通う場合でも朝7：18分、長町なら朝7：30分の電車で十分間に合います。仙台市も含めて遠いところでも概ね1時間程度で通学することができます。

「生徒同士の上下関係も緩やかで生徒が全面的に信頼されており、誰もがのびの

び活動できるため、学力的にも人間的にもよく伸びる学校」、それが白石高校です。

→ <ホームページはこちら> <http://hakko.myswan.ne.jp/>

□ 小牛田農林高等学校

| <田んぼアート>

栗原市瀬峰地区循環型農業推進会議「瀬峰農場」と共同で「田んぼアート」に取り組みました。「田んぼアート」とは田んぼをキャンバスに、稲を絵の具にして田んぼに大きな一枚の絵を描いていくものです。「瀬峰農場」の依頼により本校農業土木コース2年生41名が下がきのお手伝いしてきました。

絵の各ポイントを座標化し、授業で学んだ測量の技術を活かして縦・横63mの田んぼにポイントを打ちます。ポイントを結んでいくと下がきの完成となります。色を塗る作業は下がきを元に色の異なる稲を植えていくことです。

当日は400を超えるポイント打ちを、3班編制で丸一日かけ取り組みました。みんな素足で田んぼに入り、地域の方々と一緒に汗を流しながらの実習となり、下がきが完成したときの達成感は何事にもかえがたく素晴らしい経験となりました。翌日は曇り空のなか、地元の小学生が紫稲などの色つき稲を植えていき、見事に一枚の絵が完成しました。出来上がった絵は東北本線、田尻・瀬峰間で7月に見頃を迎えます。是非ご覧いただきたいと思えます。

ここでクイズです。今回の「田んぼアート」で描いた図柄はいったい何でしょう？
正解は学校のHPに掲載しています。

□ 古川高等学校

| <文化祭に向けた取組>

7月17・18日と、本校の文化祭である第56回古高祭が行われます。今年度は『古高パンデミック（フェーズ6）～イン古（フル）には気をつけて～』というテーマを掲げ、現在生徒会・文化祭実行委員会を中心に準備を進めております。

本校の文化祭はこれまで9月に実施されていたのですが、近隣高校と日程が重なることが多く、本校生徒が他校の文化祭を見に行けなかったり、来場者数が少なかったりするなど、問題もありました。平成19年度の生徒総会では、文化祭の時期を考えて欲しいという要望が出され、生徒会を中心に検討を重ねた結果、7月実施という案が浮上し、昨年度初めて7月の実施となりました。

その結果、準備は大変ではありましたが来場者が増え、例年以上に盛り上がりのある文化祭となりました。また、3年生にとっても、夏休みから受験勉強に集中できるということで、進路達成の点でも好意的に受け止められています。

今年度は昨年度の反省を生かし、早めの準備を心がけ、かつ新しい企画を立ち上げるなど、従来のあり方を一つひとつ見直しながら進めております。

古高祭からも、本校が掲げるスローガンである「古高 Evolution ～進化する古高」を実感していただけたと思います。7月18日土曜日が一般公開日となっておりますので、是非本校の文化祭にお越し下さい。

★街頭パレード 7月16日 木曜日 15:30～

→各参加団体やクラスが様々な仮装を行い、吹奏楽部の演奏につづいて市内をパレードします。また、古川駅前古高祭のPRを行います。

★古高祭一般公開 7月18日 土曜日 9:00～14:00

→文化部による展示・演奏や各参加団体による模擬店などが行われます。

→ <くわしくはこちら> <http://www.furuko.myswan.ne.jp/>

□ 志津川高等学校

| <中学校と高校との「つながり」を実感できる高校>

志津川高校は南三陸町内の三つの中学校と協力し、県内の高校で唯一、「連携型中高一貫教育」に取り組んでいます。連携していない中学校から入学する場合でも、中学校と高校との「つながり」を強く実感できるというよい点があります。

例えば、次のようなものです。

①中高相互乗り入れ授業…連携中学校の英語・数学の先生方が週に一回、志津川高校にきて、高校の先生と協力し、高校1年生の授業を行います。生徒のみなさんは、授業の内容が中学校の内容とどのように関連しているのか、思い出しながら学ぶことができます。

②部活動での交流…中学校・高校の部活動が合同練習や練習試合をします。特に中学生が、高校生の活動の様子を見たり、高い技術に触れたりすることで、よい刺激を受けています。

このほかにも、「生徒会執行部交流会」や、中高合同の清掃活動「南三陸クリーンアップ作戦」といった生徒間の交流があります。また、進路指導に関する「情報交換」や「合同研修会」といった先生方の交流が、年間をとおして行われています。

みなさんも志津川高校で中学校と高校との「つながり」を実感してみませんか。

志津川高校の一日体験入学は7月31日（金）に行われます。また、ホームページもぜひご覧ください。（<http://www.sizugawa-hs.myswan.ne.jp/>）

□ 貞山高等学校

| <宮城県初！の魅力がいっぱい>

本校は単位制による定時制課程の普通高校です。メールマガジン第7号（H20.10.20発行）で貞山高校だけの特徴として《前期卒業制度（9月卒業）》について、以前紹介いたしました。今回はそれ以外の魅力について本校を紹介したいと思えます。

本校は昼夜2部制の単位制高校です。単位制ですので、以下のような、通常の1年間の科目授業以外の単位認定メニューが用意されています。

①半年間の授業で単位認定をする「半期認定」

②高卒認定試験の単位認定「高認」

③各種検定試験の単位認定「資格」

④ボランティア活動などの単位認定「社会体験」 などです。

「半期認定」は延べ約900人が、前期・後期合わせて約70の講座で学習して

います。また、「高認」では約50名、「資格」では約15名、「社会体験」では2～3名の生徒が1年間で認定を受けています。

定時制課程ですので基本は4年間で卒業ですが、昼間部・夜間部の間の時間帯にある「併修課程」を選択して合格したり、①～④のような各種の単位認定を受ければ3年または3年半（9月末）で卒業することも可能です。例年3月に3年で卒業する生徒は、昼間部で約65%、夜間部では約30%です。また昨年度は昼夜合わせて9名の生徒が9月に3年半で卒業しました。

定時制なので授業料が安いのも魅力です。

全日制課程と比べると4年間で約3分の1の13万円。3年で卒業すると約4分の1の10万円弱になります。

授業を選択するのに学年のしびりが厳しくありませんので、先輩たちと一緒に自分に必要な科目を選択し受講することができます。在籍している昼間部・夜間部それぞれの授業以外を受けても授業料は変わりません。授業料が安くても、サポート体制が充実しており、1クラスを少人数にわけて担任を配置したり、卒業後の進路実現に向けて進路ガイダンスをきめ細かく行っています。また、悩みを抱えた生徒に応えるため、選任のカウンセラーを配置し、親身になって生徒や保護者の相談にあたっています。

進路決定状況や部活動も充実しており、進学では例年、東北学院大学をはじめ県内の私大や専門学校に多数入学しています。就職状況もトヨタ自動車東北やセントラル自動車など優良企業多数から内定をいただいています。

また、部活動も充実しています。県内の他の定時制の単位制高校に比べると、部活動の活動時間も保障されており、多くの運動部が全国定時制通信制大会に出場しています。文化部では放送部が、他の全日制高校と同じ土俵で活動し、全国放送コンテストに出場しています。（詳しくは本校HPをご覧ください。）

→<関連HPはこちら> <http://www.teizan.myswan.ne.jp/>

□ 一迫商業高等学校 | <栗原版デュアルシステム>

一迫商業高等学校は、栗原地域の産業界と連携し、逞しく生き、将来有能な人材となる生徒の育成を目指して、平成17年度から19年度まで文部科学省の指定校となり、「栗原版デュアルシステム」を実施しました。指定終了後も、宮城県から「個性かがやく高校づくり推進事業」の援助を受けて、3年間の成果を継続・発展させているところです。

研究」を3本柱として、生徒の勤労観や職業観を育成していくとともに、地域の活性化にも貢献できるよう取組を行っています。中でも、「起業家研究」では、地元企業の協力・指導を受け、商品を開発し、製造・包装・販売までの活動を行います。H17・18・19年度は「もちっ小屋でん」さんの協力・指導を受け、米粉を使った「米ていら」（第10回みやぎものづくり大賞受賞）・「夢持ちちーず」・

「福米包み」の商品を開発しています。H20年度は、「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」にあわせて、「丸勝食堂」さんの協力・指導を受け、すべて栗原の食材を使用した「栗原ふれあい弁当」の商品を開発し、製造・包装・販売（県内各地でのイベントに参加して、栗原の見所などを紹介したDVDや観光ガイドブックを作成し、弁当の販売に併せて無料で配布）までの活動を行っています。平成21年3月18日には、平成17年度からの上記の取組が評価され「第1回富県宮城がらみ特別賞」を受賞しています。

今年度も「丸勝食堂」さんの指導を受けて新商品の開発に取り組んでいます。

□ 黒川高等学校

| <黒川高特色ある取組について>

1 環境教育の本格導入

黒高では「環境教育」に力を入れています。例えば、学校から出た紙をリサイクルしてトイレットペーパーにしたり、ポケットティッシュにしたりしています。また、ペットボトルのキャップを集めてポリオワクチンと交換することで、発展途国の子供たちを援助しています。このような活動が認められて、平成21年3月に東北地方の公立高校では初となる「みちのくEMS（Environment Management System）」（みちのく環境管理規格認証登録証）を取得しました。これは国際規格を策定したISO14001と同意義の地方版です。みちのくEMSの規格に基づき環境マネジメントシステムを構築しており、外部機関で評価され審査に適合しました。この活動はこれからも継続していきます。現在は夏に向けゴーヤでグリーンカーテンを作成中です。各工業系の職員室の窓いっぱいまで覆い尽くすゴーヤの葉っぱ。そのおかげで夏でも部屋が涼しく、快適に過ごすことができます。収穫したゴーヤはおいしく頂くことができ、一石二鳥です。

また平成22年度の学科改編において、土木科の教育課程は土木施行・測量中心から環境系列を幅広く取り入れ、環境に優しい施工技術者の育成を図る学科と生まれ変わります。名称も「環境技術科」と、環境の名前が付いた全国でも珍しい学科になります。

2 黒高独自のキャリア教育の実践

黒高ではキャリア教育にも力を入れています。「産業人材育成重点化モデル事業」校に選ばれ、今年から「連携コーディネーター」が配置されることになりました。「連携コーディネーター」とは、誘致企業と地域の関連企業と本校との連携を図るために働いてくれる製造業関係の企業で高校生の採用に携わった経験のある方のことです。現在、進路室に常駐し企業訪問や生徒への講話・指導・相談にあたっています。実際に高校生の採用・不採用を決めてきた方の指導には重みがあり、様々な場面で生徒のサポートをしてもらっています。

平成20年度は校内にキャリア教育推進チームを設け、「キャリア教育マスタープラン」を策定しました。従来から本校で行ってきたキャリア教育を組織的・時系列的に整理し直し、質と効果を高めました。年々グローバル化していく社会の中で、良き社会人・職業人として働いていける資質と能力が身につけられるよう工夫されています。

3 独自の教科で基礎力充実

高校の新しい科目を学ぶにも、読み書きそろばんで代表されるような基礎基本は大切です。黒川高校では、国語、数学の基礎的な学習内容を、学校設定科目「パワーアップ」であらためて学びなおします。1クラスに3人の先生がついて、徹底して指導します。

4 地域で活躍するアルカス

本校生徒会は「アルカス」に所属しています。アルカスとは小学生、中学生、高校生の子どもたちで構成された、より良い地域環境づくりを目指して活動するボランティア隊のことです。大和警察署からも支援してもらい地道な活動を行っています。昨年度は、大和町の「まほろば夏祭り」会場での万引き防止キャンペーン参加や、本校駐輪場の巡回、防犯防止ポスターの作成など行いました。今年度も同様の活動

に加えて、7月には大和町の町民あがてのイベント「まほろばの里25000人の安全日」に参加します。警察、消防、自衛隊、郵便局、各企業の方々に混じって犯罪防止キャンペーンを行い、犯罪撲滅の一翼を担います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 学校公開のお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

学校公開を下記の日時で行います。各学科の学習内容や雰囲気を知ることが出来ますので、多くの中学生の参加をお待ちしております。

日時 ①平成21年7月29日(土)9:00～12:00(全ての学科の説明)

②平成21年10月17日(土)9:00～11:00(希望学科での授業体験)

<ホームページはこちら <http://kurokawa.myswan.ne.jp>>

□ 石巻西高等学校

| <学習習慣の定着を目標にした取組>

本校では平成15年度から平成17年度の3カ年、文部科学省からの指定を受け、「学力向上フロンティアハイスクール事業」を実施しました。この事業では生徒に「学習の記録」の記入、国・数・英・小論文の順に「週末課題」を課し、学習習慣の定着に取り組みました。さらに、平成18年度から平成20年度には「学力向上拠点形成事業」を実施しました。この事業では「フロンティア」の中身を受け継ぎ、週末課題は国・数・英で毎週出すようにし、確認テストを実施した教科もありました。教員では宮城教育大学と連携して、公開授業を実施し、「授業力の向上」に努めました。引き続き今年度からは「学力向上実践研究推進事業」の指定を受け、過去の取組を検証しながら「学ぶ力」の向上に努めています。

また、国際理解教育にも力を入れ、講演会(平成20年度にはラトビア駐日大使の講演)、海外修学旅行(平成20年度はハワイ、希望者のみ)などを行っています。

部活動も盛んに行われ、弓道・空手道を中心に活躍しています。

→(くわしくはこちら) <http://www.inisi.myswan.ne.jp/>

■ 3 学校紹介スペシャル ■

高等学校の特色ある取組を含めて学校の取組全体をくわしく紹介するスペシャルコーナーです。

□ 佐沼高等学校

| <校是「文武両道」のもと、一人ひとりの目標に向かって>

佐沼高校は、「文武両道」の校是のもと、一人ひとりの生徒がそれぞれの目標に向かってひたむきに学習や部活動等に励んでいます。昨年度の国公立大学合格者は64名。インターハイや全国総合文化祭に数多くの生徒が出場しました。

文武両道の取組① 学習面

佐沼高校では、昨年度から、毎日45分×7時間の授業を行っています。どんな進路を希望するとしても重要になる英語・数学・国語の各教科には特に力を入れています。この3教科では、授業時間数を通常より増やしているだけでなく、少人数

や習熟度別編成による授業も行っており、密度の濃い学習ができます。

また、授業に加えて、学習を深めていくための課外講習などもあります。全学年対象で、年間を通じて月に2回程度行われている「土曜課外」。夏、冬の長期休業中の課外、3年生の県総体終了後から行われる毎日2コマの「放課後課外」。その他にも、仙台や東京から予備校の講師を佐沼高校に招いて行われる「予備校連携課外」や、他の高校と合同で校外で行う「学習合宿」など、学ぶ機会はたくさんあります。

文武両道の取組② 部活動

今年は陸上競技（棒高跳）及びボート競技（女子舵手付クォドルプル）でインターハイへの出場を決めています。文化部でも箏曲部と美術部が全国総合文化祭へ出場します。この他、どの部も県総体や各種大会・発表会等に向けて熱心に活動しています。また、部活動を通して「チームワーク」や「自分たちでよりよい練習計画を立てること」など、成績や結果だけでなく多くのものを手に入れることができます。

文武両道の取組③ 学校行事

佐沼高校は、学校行事の盛んな学校です。特に夏休み前後に行われる「球技大会」「陸上大会」「佐高祭（文化祭）」は「三大行事」と呼ばれ、大きな盛り上がりを見せます。行事では、あたえられたものを受け身に楽しむだけでは、本当に楽しむことはできません。佐沼高校では、生徒会役員や実行委員の生徒を中心に、毎年「去年以上に盛り上がる、よい行事にしよう」と自分たちで考え、行動しています。そして、みんなが参加することでより「楽しめる、盛り上がる」行事になっているのです。今年の佐高祭は8月30日（日）に一般公開します。多くの方の来校をお待ちしています。

文武両道の取組④ 生徒のがんばりを支える環境

放課後の職員室前。廊下には机が並び、手元を明るくする照明もあります。多くの生徒が遅くまで自習しています。わからないところは、積極的に先生方に質問する姿も見られます。この、放課後の学習は佐沼高校の伝統ともいえるものです。先輩方の姿が後輩たちに引き継がれていきます。

佐沼高校には、登米市内を中心に、広範囲から生徒が通学しています。通学手段として大きな役割を果たしているものに市民バス（100円バス）があります。朝の通学時はもちろんのこと、部活動後の下校時（19時台）にも運行され、多くの生徒が利用しています。

→〈ホームページはこちら〉 <http://sanuma.myswan.ne.jp/>

□ 泉松陵高等学校

| 〈希望進路100%達成を目指して〉

泉松陵高校は進学校としての学力保証と生徒の希望進路100%達成を目指して、基本的に学習重視の取組に力を入れています。主なものをいくつか紹介しましょう。

○ 『進路別クラス編成』

「国立文系」、「私立文系」、「国立理系」、「国立文系」、「看護医療系」の

5つのコース選択に基づいてクラス編成を行い、進路希望達成を目指します。

○ 『65分授業』

本校では1時間の授業を65分にするによって、授業の内容をしっかりと理解し、学習内容の確実な定着を目指します。

○ 『朝学習』

毎朝、確認テストを中心とした朝学習を行い、確実な力をつけます。

○ 『週末課題』

週末の家庭学習をより効果的にできるように支援します。

○ 『PTテスト』

2週間に一度、英国数を中心にした‘Power-up Time Test’です。朝学習と週末課題の内容をきちんと理解して、身に付いているかチェックし、学力のPower-upを図ります。

○ 『学習時間チェックシート』

『学習の記録』を付け、継続的な学習の習慣づけをします。

○ 『学習カウンセリング』

学力向上や進路希望達成のために、一人ひとりのニーズに応じたきめの細かい学習指導や学習相談などを実施し、しっかりサポートします。

以上、主な取組をあげましたが、このほかにも特色あるカリキュラムの編成や、系統的な進学ガイダンスを実施して、大学・短大進学を目指す進学指導から生活環境の工夫にいたるまで、徹底した情報提供と指導を展開しています。

泉松陵高校は、開校以来「文武両道」と「自主・自立」の精神が貫かれ、部活動と共に生徒会活動にも非常に力を入れてきました。

以上、本校の特色と主な取組について述べましたが、泉松陵高校は将来の目標を明確に持ち“自己実現の意欲”のある人にとって、充実感と達成感を味わえる学校です。希望を持って意欲的にチャレンジしたい中学生の皆さんの入学を待っています。

□ 泉高等学校

| <無限の可能性一瞳かがやく泉高生(いずみ)->

1 Super English Language High School の泉高

泉高校には、県内において2校にのみ設置されている英語科があり、英語そのものを勉強するだけでなく、英語を通して言語や文化に対する関心を持ち、広い視野で物事を考えられる生徒の育成を目指しています。また、平成18年から20年までの3年間、文部科学省のSuper English Language High Schoolの指定を受け、英語を読む・聞く・書く・話す・書くという4つの技能を総合的に伸ばすという先進的な英語指導の研究を行ってきました。

これからの国際社会に生きる日本人にとっては、国際的共通語となっている「英語」のコミュニケーション能力を身に付けることが大変重要だと言われています。泉高校では、英語科はもちろん、普通科においても質の高い英語の授業や研修が準備されており、将来どの分野に進んでも役に立つ国際コミュニケーション能力を養うことができます。

①恵まれた英語学習環境

泉高校には2名のALTが常駐しており、日本人教師とのティーム・ティーチング授業が展開されているほか、放課後には希望者を対象にしたALTによる英会話

講座も開催されています。また、英語科にはコンピュータとLHを連動させた最新の語学学習機器が整備されており、インターネットを用いて情報を収集・編集し英語でプレゼンテーションを行うなどの授業も行われています。

②語学研修

英語科では1年生を対象に2泊3日の英語研修を行っています。また、これまで英語科2年生の希望者を対象に実施してきた海外研修を、今年度からは普通科にも対象を広げて3月に実施する予定です。英会話練習や異文化理解などこれから約半年をかけての入念な事前研修の後、約12日間オーストラリアに滞在してホームステイ、英語授業などを行い、本場での実践をとおして授業で学んだ英語に磨きをかけるとともに、異文化体験・異文化理解を深めます。

③高い英検合格率

生徒は英語の資格取得に熱心で、毎年250名以上が実用英語検定を受験しています。昨年度は準1級に3名（泉高生の合格率42.9%/宮城県の高校生の合格率9.8%）、2級に18名（同16.8%/19.2%）、準2級に81名（同59.1%/35.4%）が合格しました。

2 合い言葉は「希望進路の実現」

泉高生の約97%は進学を希望しています。特にここ数年は国公立大学への進学希望者が増加し、また、理系への進学希望者の増加も目立ちます。泉高校では、LHRや総合的な学習の時間で進路について1年次からじっくり考える時間を設け、45分1日7時間という充実した授業に加えさまざまな学習のサポートを行うというシステムで、学校全体として「希望進路の実現」に取り組んできました。その結果、平成21年3月卒業生の進路決定率は過去最高の87%となりました。また、国公立大学現役合格者は64名（卒業生の23%）、合格先は地元東北大学4名をはじめとして全国に広がっています。

①多彩な進路研究

卒業生や予備校講師による進路講演会や、県内外の大学からさまざまな学問分野の研究者を招いての出張講義、東北大学・宮城教育大学のオープンキャンパスを活用した学部・学科研究などを行っています。

②充実した学習サポート

1・2年では週間課題や長期休業中の講習、3年では平日課外講習や土曜セミナーなど、進路に応じたきめ細かな学習サポート体制が組まれています。また、冷暖房完備の個別ブース型学習室は土日も利用可能で、多くの生徒たちが利用しています。

3 充実した部活動や学校行事

泉高校は、勉強だけでなく、部活動や学校行事などの諸活動をとおして自分を伸ばすことを大事にしている学校です。現在、運動部13部、文化部10部のほか3つの同好会があり、生徒は全員必ずいずれかに加入しています。また、学校行事は、生徒会執行部と生徒実行委員会による自主的な活動で運営するという学校創立以来の伝統があります。

①活躍光る部活動

毎年、どこかの部活が全国にコマを進める活躍をしています。今年度の高校総体では弓道部男子が団体1位、個人でも2位・3位を獲得しました。東北大会でも団体3位という成績を収め、7月末に奈良県で開催されるインターハイでの活躍に校内の期待も高まっています。また、文化部では、放送部がNHK放送コンテスト全国大会に平成17年度から連続5年目となる出場を決め、8月に三重県で開催され

る全国総合文化祭にも参加します。

②泉高校三大行事

5月の泉三校定期戦，7月の泉高祭，9月の校内球技大会は泉高校の三大行事で，生徒会や応援団，実行委員会が大いに活躍します。泉・泉松陵・泉館山の三校の運動部が三つ巴の戦いを繰り広げる泉三校定期戦は，応援団・チアリーダーによるパレードが行われるなど応援合戦でも盛り上がります。文化部だけでなく運動部やクラスなど有志参加も多い文化祭，クラス対抗の球技大会は，生徒会と実行委員会が協力し企画・準備から当日の運営，後片付けまでを生徒主導でこなしています。

→<ホームページはこちら> <http://www.izumihigh.myswan.ne.jp/>

□ 石巻好文館高等学校

| <単位制高校に変わり，新たな時代に向かって歩みだす好文館>

★平成22年度入学生から単位制高校に変わります★

平成22年度入学生から石巻好文館高校は，全日制課程普通科としては，石巻地区で初めての「進学型単位制」を導入します。

本校では，従来から一人ひとりが持っている力を最大限に引き出し，志望を達成させる指導を目指してきました。また，大学入試に合格するための学力を身に付けるだけでなく，社会人となってからも必要な力や伸びる力を身に付けることを目標に指導してきました。

生徒の実態，理解度，希望などに添い，今まで以上にきめ細かな対応や指導を通して一人ひとりの進路希望を実現させたい。そのような願いから，「進学型単位制」を導入します。

深く学びたい生徒も幅広く学びたい生徒も充実した高校生活を送れる，そんな学習環境を目指して好文館は，さらに一段階進化します。

～ 好文館高校の進学型単位制とは何ですか？ ～

学年の枠を取り払い多様な選択科目を設定し，自分の希望に沿った時間割で学習し，必要な一定の単位数を修得すると卒業できるのが単位制です。科目履修の順序に従って，それぞれの進路目標にあわせて，学習していくことになります。

本校では，初めの2年間は，あらゆる進路に対応できるよう必修科目を中心に学習し，幅広い科目を勉強します。そして，英数については少人数による授業を展開し，一人ひとりを丁寧にきめ細かく指導します。

3年目は，多様な希望に沿うように「進学向けの多数の選択科目」を設定し，進路の実現に向けた学習に集中できるカリキュラムとなります。

自分の進路達成に必要な科目で自分の時間割を作ることができるため，これまで以上に「授業＝進路に直結した学習」の意味合いが強くなります。また，選択科目が多岐にわたるため1科目あたりの人数が少なくなり，きめ細かい指導を受けることができます。

このように，ますます個々に適した学習が進められる学校になります。さらに，課外講習や小論文対策など個々の進路に応じて様々な取り組みがあり，進路達成に向けて全面的にバックアップします。

★勉強だけじゃない、合言葉は”好文好武”★

好文館は部活動も活発です。今年度も、地区総体のソフトボール、卓球、弓道の団体優勝や陸上競技100m、200mの個人優勝を始め、県総体のバスケットボール女子、ソフトボール、弓道男子のベスト8、空手道、卓球女子、陸上競技4×100mリレー、水泳女子200mバタフライの東北大会出場など数々の部活動が活躍しました。”好文好武”を合言葉に、勉強に部活に両立しながら頑張っています。また、音楽部、吹奏楽部、マンドリン部の定期演奏会など文化部の活動も活発で、平成20年度は文芸部が全国高等学校文芸コンクール優秀賞を獲得するなど運動部の活躍に負けていません。また、応援同好会のように、地元のサンファン祭・石巻川開き祭・女川みなと祭などで、チアリーディングの演技披露するなど、地域に根ざした活動を行っている部活、同好会もあります。このように、勉強だけでなく、部活動でも頑張ることができる石巻好文館高校です。

～ 男子の部活動はどうですか？ ～

共学化間もない頃の好文館は、正直なところ、男子が活躍する部活も少なく、環境が整っているとは言えませんでした。しかし、今では、男子バスケットボール部と硬式野球同好会が加わるなど男子部活動の充実が図られ、弓道男子も県ベスト8入り（あと1射で決勝進出）を果たすなど着実に力をつけています。これから、ますます男子の部活動の活躍が期待されています。

7月17日には硬式野球同好会が全国高等学校野球選手権宮城大会初戦を迎えます。対戦相手は、佐沼高校と向山高校の勝者で愛島球場にて行われます。どちらも強豪校であり、2年目の好文館高校がどこまで奮闘してくれるか楽しみなどころです。まだまだ、できたばかりの男子の各部活動。これから新しい好文館の歴史と一緒に作っていきませんか？

★高校生活を充実したものにしたい人はぜひ好文館へ★

この他、生徒会や委員会活動も活発で、生徒が自主的に取り組み、各種行事を盛り上げています。球技大会・文化祭・運動会などでは、クラスが一丸となって取り組むなど、生徒は明るい学校生活を送っています。2年生で実施される修学旅行も皆が楽しみにしている行事の一つで、これらの様々な行事も含めて、充実した学校生活を送れることは間違いありません。

それに加えて一人一人を大切にしたい、きめ細やかな指導は、君たちの明日を切り拓くお手伝いをします。

一生に一度の高校生活だから、勉強に部活に頑張る君たちを応援します。

→ <ホームページはこちら> <http://www.koubunkan.myswan.ne.jp/>

□ 岩出山高等学校

| <一人ひとりを大切に、一人ひとりの力を伸ばす、岩出山高校>

本校では、総合的な学習の時間を、現存する日本最古の郷学「有備館」になぞらえて「悠備館タイム」と呼んでいます。週1時間設定されているこの時間は、地域

から出発する調べ学習等を取り入れながら、学習指導・生徒指導・進路指導を統合した『キャリア教育』の視点から、生徒個々の自己実現を図る力を系統的に伸ばしていこうとする取組です。1学年の前期には、身近な題材を取り上げた地域学習を展開し、「私たちの悠備学」をつくることを通して、地域社会に対する興味・関心を高めます。後期には、仮想市役所「悠備館市」の課員として、地域社会が抱える課題や問題点を捉え、具体的な解決策を考えます。2学年の前期には、身近な問題を取り上げた「悠備館トレーニング」として、ディベート学習を展開し、多角的な視点をもって物事を捉えたり、自信をもって自分の考えを発表します。後期には、職業理解を深めたり、自己の適性を見直すことで、主体的な進路選択ができるようにするために、地域の事業所における職場体験学習を中核に据えた学習を展開します。そして3学年の前期には、「未来の扉を開け」の共通テーマのもとで、希望進路を実現するための具体的な手だてを考え、計画的に、自ら進んで自己実現する力を身に付けます。後期には、「悠備学講座」として、社会生活に必要なマナーを学ぶなどして、逞しく生きる力を育みます。

本校の特色ある取組には『政宗公まつり』があります。毎年秋（今年は9月13日）に大崎市岩出山で開催されるこの祭りには、全校生徒が一人一役体制で参加し、勇壮な「牛鬼かつぎ」で祭りを盛り上げます。是非ご覧ください。

→ くわしくはこちら <<http://www.iwadeyama-h.myswan.ne.jp/>>

■ 4 コラム ■

高等学校の校長先生、一般の先生、生徒代表などが、「我が校」に対する想い、最近の話題などについて語ります。その高校の新しい魅力が発見できるコーナーです。

□ 気仙沼高等学校

| <「本校の歩み、これから」>

本校が開校して早くも4年が過ぎました。自由闊達で躍動感のある男子校（旧気仙沼）、笑顔と活気にあふれた華やかな女子高（旧鼎が浦）の二つの伝統を土台としたうえで、新しく開校した学校が現在の本校です。伝統は、部活動に端的にあらわれています。例えば「気仙沼・本吉地区のお家芸」のフェンシング。昨年は残念ながら女子団体決勝戦で敗れインターハイ出場をのがしましたが、本校の特色のひとつです。北京オリンピックに出場した菅原智恵子選手（条南中・鼎が浦出身、本校職員）と千田健太選手（松岩中・気高出身）はその象徴的な存在と言えるでしょう。2人に続く選手が今の小中学生の中から出てくる可能性も十分あるはずです。もちろん、フェンシングではありません。両校の伝統を尊重して多種多様な部活動が設置されました。このバラエティの豊富さが本校の特色です。例えば音楽関係の部だけでも吹奏楽（旧気）、マンドリン（旧鼎）、合唱（旧鼎）、軽音楽（旧気・鼎）と多様であり、他校に類を見ません。つまり、「多様性」が「学校としてのユニークさ」になっているのです。

「共学になってよかったことは何ですか？」、これは外部の皆さんからよく受ける質問です。開校初日のあるクラスの学級日誌の日直のコメント欄を見ると、「生徒だけでなく先生たちも緊張していた」と書かれていました。独特の雰囲気です。

ートしたことがうかがえます。しかし、すぐにクラスは打ち解けたようで、結局、何の心配もありませんでした。行事では男女でうまく役割分担がなされました。

「男子が企画して、女子が具体化する」あるいはその逆のパターンで、楽しく安定した行事運営をしています。ちなみに本校の行事の名物は、球技大会（7月）、気高祭（8月末）、運動祭（10月）です。みんな高校生活を十分に満喫しています。また、共学になって学習面が伸びました。「お互いに負けられない」という意識が働き切磋琢磨したからでしょう。昨年度の3年生は国公立大合格63人でした。3年連続して60人台と安定してきましたが、もっと伸ばしていきたいと思っています。

それから、こんな質問もよく受けます。「大学進学希望でない生徒は気高に入学しない方がよいのでしょうか?」。そんなことはありません。本校は、大学進学を大きな目標のひとつとして学習活動を推進していますが、実際には公務員希望者など他の進路希望者もあり、個々に進路目標を達成しています。「大学進学を中心としつつも多様な進路状況」をもつ学校なのです。当然、どの進路についても日々の学習に対する努力は欠かせません。まずは、1、2年生でしっかりと基礎学力、応用力を養い、3年生で進路達成できるよう支援します。（2年生からは文系・理系に分かれるクラス編成・カリキュラムとなります）。最近二年間は、岩手県の釜石高校、大船渡高校と連携しての合同の課外講習、合同模試を希望者対象に実施しました。他校の生徒と一緒に学習すると、とてもいい刺激になります。

（学校としての目標は100%の進路達成、国公立大合格80人）

「連携事業としてどんな取り組みをしていますか?」。これもよく受ける質問なのですが、まずは、国際交流があげられます。開校以来、気仙沼市教育委員会と連携して、MTP（アメリカの先生との短期交流）、オーストラリア短期語学研修（3月）に取り組んできました。同時に英語教育に力を入れ、実用英語検定の取得を積極的に推奨し、準2級合格の生徒も増えてきました。これらの活動が評価されて、平成18年度には文部科学大臣表彰を受けております。また、近隣の小中学校とも連携しています。毎年2月に、本校の3年生が「学習ボランティア」として九条小学校の算数の授業・課外授業に参加しております。小学校の先生方の指導を受けて、小学生への学習支援を行います。初めはなかなかうまく教えられなくて苦労するようですが、先生方や児童との温かい交流から多くのことを学べます。「自分も高校生になったら小さい子に勉強を教えてあげたい」という小学生の感想文を読むと、「ボランティアをして本当によかった」という実感がわくようです。

最後に、本校は県立学校ですが、「地域の市教委や小中学校との距離が近い学校」、「郡部にあっても文化的な水準の高い学校」、そして、「皆さんの夢を実現させる学校」でありたいと考えています。三陸の澄みわたる青空の下、全国に誇れる気高生が育ち将来に向かって翼を広げます。「旧気高・鼎高の伝統をベースに新しい感覚でのびのびと学ぶ」、「悩みながらも夢のためにみんなで励まし合える」、そんなスクールライフにあなたの情熱を注いでみませんか。

■ 5 お知らせ ■

◆公立高校ガイドについて

平成22年度春の高校入試関係情報を含む各高校の特色をまとめた「平成22年度公立高校ガイド（入試情報）」を各高校のホームページに掲載しましたのでご活

用下さい。

公立高校ガイドは、高校教育課のホームページともリンクしています。

《方法》 「宮城県教育庁高校教育課」 検索



「宮城県／教育庁高校教育課」をクリック



「公立高校ホームページ」をクリック



「見たい学校」をクリック … 各学校のHPのトップページへ



「公立高校ガイド（入試情報）」をクリック

◆公立高校ガイドブックについて

「公立高校ガイドブック」については、7月中旬頃に高校教育課のホームページに掲載する予定ですので、ご活用ください。

■ 6 編集後記 ■

今年度になって2号目の「高校教育課 情報メール」第11号をお届けします。今回は、夏休み前後に実施予定の合同相談会やオープンキャンパス（学校説明会）の案内とあわせて、県内の高等学校の特色ある取組も紹介しています。ご覧ください。

今後も県立高校に関するさまざまな情報をお知らせしますので「高校教育課情報メール」をよろしくお願ひします！

高校教育課 情報メール（メールマガジン）

○発行：宮城県教育庁高校教育課 〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1
TEL：022-211-3626 / FAX：022-211-3696
